

# 淑徳与野中学・高等学校 平成 28 年度 学校評価 報告書

平成 29 年 7 月 5 日  
淑徳与野中学校  
淑徳与野高等学校  
校長 里見 裕輔

## (1) 自己評価

平成 28 年 7 月に全校生徒に対して「授業アンケート」を実施し、その結果を各教科担当者が生徒に報告するとともに、各教科会で結果を分析し、授業に関して評価した。以下は各教科からの『授業アンケート結果報告書』の一部である。

国語：多くの評価項目でA評価が2～5%増えており、各担当者の指導の工夫の成果が表れたものといえる。教員の授業スキルの項目について高い評価を得ている一方で、生徒自身の国語に対する苦手意識をなかなか軽減させることができない。試験で手軽に得点できる方法のようなものを授業に期待してしまう生徒に、国語という教科の学習を通してどのような力を養っていくべきなのかを、伝え続けていく必要がある。

数学：全体的にとっても悪く目立つ部分はないが、板書の読みにくさ・分かりにくさ、授業後の効果が感じられていないという意見が目立つ。教科書にかかっていることをそのまま板書するのではなく、何が大切かということ意識させてノートを取らせるように工夫すること。今学んでいることが模試や入試問題でどのようにかわるのかということにも触れられようにすることで効果があると感じさせられるようにしていく。

英語：全体的には前年度より向上している項目が多い。成果がえられないという不満感をどうするかが問題。4技能の力をきちんと把握する必要がある。個々の生徒がどのあたりに学習不足を感じているのかを教科そして生徒両方から把握できるような取り組みを組み立てていきたい。

理科：ほとんどの項目で「高」評価よりも「低」評価が増えてしまった。中でも学習効果について実感できないという評価が強く、改善が必要である。原因としては、高校1年次には物理・化学・生物の3科目をすべての生徒が行い、また2年次以降は理系生徒が受験に直結した内容で授業を受けるというギャップがあると考えられる。科学的な興味関心と受験向けの学力を養うような工夫を考えていきたい。

社会：授業内で小テスト・復習テストなどを盛り込むことに加え、定期考査ごと、実力テストごとにプレテストを行う、過去問に取り組みさせる、テスト後に「解き直し指導」をする、学習法について詳しく伝えるなど、生徒への働きかけを意識的に改善しようと取り組んだ結果が高評価につながった。教科・科目ごとの担当者でのコミュニケーションを取ることで授業進度について情報交換するなどし、同一単位のクラスは類型を越えて共通問題、時事問題、地名テストなどを実施、または定期考査にも組み込み、相互研鑽、に務めたい。

保健・体育：アスマ記念館の建設によって、活動場所に余裕ができ、授業自体もスムーズにしているため、生徒も伸び伸び運動できているようで評価自体も全体的に高かった。中学にも徹底した集団行動を導入し、規律も生まれてきて良い傾向にある。保健の授業においては、教科書外の実用的な知識が得られるという意見が多く、高評価を得られた。

芸術：移動教室の多い教科であるが、開始終了の時間が守られている。また話し方の項目で評価の向上がみられる。行動指示、授業の目的を明示する。練習による表現の変化を感じさせる指導を心がけていきたい。

技術・家庭：全体では肯定的な評価が多数であり、実技・技能が向上したという意見があった。エプロン製作・調理実習の時、分かり易く説明してもらえて楽しい授業であったという評価ももらったまた、分からない所は、何回聞いても丁寧に答えてもらったという意見が多くあった。授業の効果が出たかどうかを生徒が感じられるように、実技・実習では技能の向上が確かめられるように、実技のテストをしていきたい。

淑徳の時間：全体としては高評価を得たといえるが、例年に比べて評価が上下に割れた傾向がみられる。本校の心の教育の

柱となる教科であるだけに、すべての生徒に授業を受けてよかったと思えるようになってほしいが、週1時間という限られた時間の中で全ての生徒の心をこちらに自発的に向かせるのは特に新入生にとっては7月のアンケートの段階では数字に表れるのが少し早いかもしれない。

情報：週1コマの授業内で座学・実習を行い、コンピュータのスキルにもバラツキがある中で全ての生徒に効果的な内容を行うのはなかなか難しいところではあるが、座学では身近な話題をできるだけ取り込み、実習ではできる限り時間ごとに成果を感じさせられるよう、内容の精査と時間配分をさらに工夫したい。

#### <総括>

どの教科も全体としての評価は高い水準である。特に「ガイダンス」や「熱意」といった項目はすべての学年でおおむね好意的な評価である。授業の質をさらに向上させるための課題としては、生徒が自ら参加する授業に対する「成果」をいかに効果的に実感できるようにするかという方策を各教科ともさらに研究することが肝要であるとする。

## (2) 学校関係者評価

### 1. 学校関係者評価委員会の開催

日時 平成 29 年 2 月 18 日(土)14 時 30 分~16 時(中学)、2 月 25 日(土)10 時~12 時(高校)

出席者 淑徳与野中学・高等学校後援会役員 1 名、高校保護者から 10 名、中学保護者から 10 名。副校長、教頭、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、事務部長が聞き手として発言内容を記録した。

### 2. 委員会での発言内容から

委員会では平成 28 年 7 月に行われた保護者による学校評価アンケートの結果をもとに評価すべき手、改善を要すると思われる点等についてご意見をいただいた。保護者による学校評価においては、おおむね好意的な評価をいただいております、これからも引き続き継続していくべき内容であると考えます。以下に、主な意見を挙げる。

- ◆ 学習面にとっても手厚く対応して下さっている
- ◆ 学習指導は勿論、情操教育にも重きを置き、学校全体で教育理念に基づいた指導に取り組まれている
- ◆ 淑徳の時間は、本校独自の取り組みであり大切にしたい
- ◆ 校舎内外が常に清潔で施設設備が整い、生徒に恵まれた学習生活環境が提供されている
- ◆ 合唱コンクール、百人一首大会等、生徒たちの一生懸命な姿が見られる
- ◆ 授業アンケート結果については、概ね評価が高いので、安心して先生方に任せられる
- ◆ 生徒、保護者の要望に対し、学校は高い評価を得ている
- ◆ 進路指導については、七割から八割ぐらいが肯定的な回答をしている
- ◆ 安全管理、情報発信に関して多くの保護者が高く評価している
- ◆ 個々の進路に向けて迅速で具体的なアドバイスを頂ける
- ◆ この学校に入学させて良かったという意見が毎年多い

また、改善を検討してほしいという意見としては、主に、各種行事など学校の様子がもう少しわかると良いといったこと、運動場が狭いといった側面から子供の体力的な面に不安を感じる、学習面で部活との両立の悩みや成績をもっと上げたいという思い、毎年御意見をいただく携帯電話の所持についてといったところがあげられた。

これらに関して委員会の中で、運動場の問題については校庭の拡張計画があること、成績に関する悩みほどの学年の保護者にも共通して存在するものであり、学校側のさらなる努力を求めるとともに卒業までの期間を通して成果をはかることが必要であり、近視眼的な思いに窮してはならないといった意見、携帯電話にしても賛否両方の意見が出されるなど、委員の中においてもいろいろな角度からの考えがあることがうかがえた。全校的には現状を大きく変えるところまでの段階ではないと判断してはいるが、学校としては内容を精査し、より満足度の高い学校づくりへと活かしていきたい。

### (3) 第三者評価

#### 1. 第三者評価の実施について

学校法人高宮学園代々木ゼミナール教育総合研究所に委嘱した。同研究所は平成28年6～7月にかけて全在校生の保護者に対して「学校評価保護者アンケート」を実施し、その結果を分析して評価した。

#### 2. 評価結果の要約

中学・高等学校とも、本校の学習指導や進路指導に対する期待が高く、より一層の充実を望む声が寄せられた。具体的に項目に分けて要約すると次の通りである。

- ① 全体としては、良い結果であったが、得意の伸長と不得意克服とに分割した学習指導の項目は、後者でやや厳しい評価を受けた。この点に留意し、教科指導にあたる必要がある。
- ② 中学1年保護者について、留保回答が多くなった。アンケートの時期が1学期末ということもあるが、学級、学年、学校それぞれのレベルからの情報伝達の在り方を点検する必要がある。
- ③ 中学保護者の間で国公立大学進学志向が高まった。これは、高校に進級した一貫生1年生の保護者も同様であり、高入生にも見られる傾向である。これに対し、一貫生高校2，3年生の国公立志向は漸減している。学年が進むにつれて現実的な進路志望が考えられていることによるものと思われるが、進路指導の点において留意すべき事項である。